

音楽教育 実技・理論 研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>豊かな感性に ときめく心を ～互いに学び合い、高め合い、表現する力を育む指導のあり方～</p>	
<p>日時</p>	<p>令和 元年 6月 28日(金)</p>	
<p>会場</p>	<p>石狩市立花川小学校</p>	
<p>講師</p>	<p>高倉 弘光氏 (肩書:)筑波大学附属小学校 教諭</p>	
<p>参加者</p>	<p>約 34名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>公開授業は、花川小学校の 1 年生を対象に行われました。この授業は「小学校入学期における音楽作りの導入はいかにすべきか。」ということをしており、「あそび」をキーワードに音楽作りに触れさせていこうという意図で、授業が組み立てられていました。</p> <p>本授業は、「音を出したり言葉を唱えたりする方法がさまざまにあることに気づき、どのように表すかについて思いを持つことができる」ことがねらいとされていました。このねらい達成のために、まずは「音」に自然に意識が向くようなしかけを組み入れながら、音楽遊びを行いました。子どもたちの反応を見極めて、的確に声を掛けたり、子どもたちの反応の理由を聞き取ったりすることで、子どもたちの学習意欲と集中力が非常に高まっていました。</p>
		<p>次に行った手拍子回しでは、輪になって座り一人一発の手拍子を回していきました。「手拍子で、一人一発で」というルールだったのですが、子どもたちは非常に自由な発想で、手以外の所も使って音を出していました。それに対し、高倉先生は「面白い表現」として認めていました。認められることで子どもたちは「もっと面白い表現にしよう。」と更に考え、表現の楽しさを感じていました。授業後、この点について先生は、「『手』という枠からちょっとはみ出すくらいで良いと思っている。どこまでを許容するかを自分の中で考えておくことが大切だ。」と話されていました。</p>
		<p>最後に自分の名前を唱えるという活動を行いました。名前を唱える時に、「面白いリズム」が自然と生まれ、言葉の唱え方にもさまざまな方法があることに活動を通して気づいていくことができました。悩んでいる子にはたくさんのヒントを与え、面白いリズムは褒めていったことで、全員が、「自分の名前を面白いリズムで言えた」と満足していました。1 年生のこの時期でも、こんなに色々考えて「音楽作り」を楽しむことができることを教えていただいた授業でした。</p>



授業後は、授業についてのお話や、新学習指導要領についてのお話を聞いた後、参加者で「早口言葉」を使った音楽作りを行いました。「早口言葉を1つまたは2つ使い、それをどう切ってもつなげても良い」というルールで4人一組のグループを作って取り組みました。どのように音を重ねるか、強弱は、終わり方などは話し合い、試行錯誤しながら1つの作品を作って発表しました。この試行錯誤の時間がとても楽しく、私たち教師も音楽作りの楽しさや達成感を味わうことができました。まさに、学び合い、高め合っときめいた時間となりました。